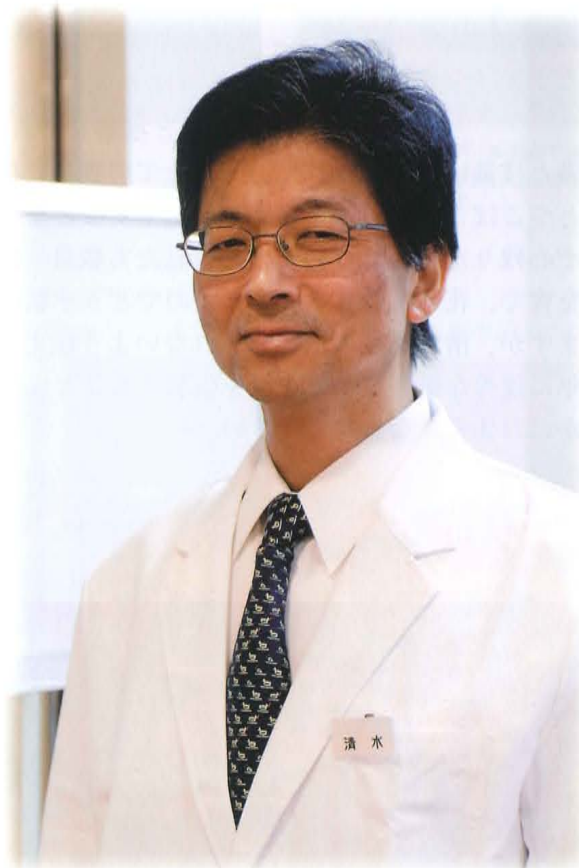


葦

大阪発達総合療育センター広報誌
清水信幸園長追悼号

清水信幸園長を偲んで



社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

発行 者：社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者：企画室 松本 茂樹

URL <http://osaka-drc.jp>

肢体不自由児施設 南大阪療育園
重症心身障害児施設 フェニックス
肢体不自由児通園施設 あさしお園
難聴幼児通園施設 ゆうなぎ園

〒546-0035 大阪市東住吉区山坂5-11-21
TEL 06-6699-8731 (代)
FAX 06-6699-8134
〒552-0004 大阪市港区夕風2-5-3
TEL 06-6574-2521
FAX 06-6574-2524





清水信幸先生

先生は平成19年11月7日に御年54歳という若さでお亡くなりになりました。思い起こしますと、先生が大阪大学整形外科助教授という立派なそして重要な地位を辞職され、敢えて障害児療育・小児整形外科の臨床に専念されようとして、この南大阪療育園に参加されたのは、平成18年4月のことでした。

新しくなったこの大阪発達総合療育センターのグランドオープン記念式から始まって、南大阪療育園の園長として、手術の再開、病棟の運営などその後の基礎作りに尽力されました。その時すでに病魔に侵されておられたと想像されますが、それにもかかわらず、患者様にはあくまでも優しく丁寧に親切に接し、誰からも慕われておられました。

今年3月の通園部「ふたば」の卒園式では、周りの目も気にせず涙を流しておられたと伝え聞きました。困難な問題を持って社会へ巣立っていく子ども達の将来を慮ってか、または、在園中の思い出を懐かしんでか、今となってはお聞きすることもできませんが、いずれにしても先生の優しさ誠実さの現われと推察しております。

センターホームページの写真です。
清水先生お気に入りの写真だったそうです。

その専門知識と技量は極めて優れており、全ての職員に信頼されていました。体調は大変厳しかったと思われましたが、愚痴ひとつこぼされることなく笑顔を絶やすことなく頑張っておられました。

志半ばでさぞ心残りだったと存じますが、私たち職員一同、先生の御意志を実現するよう、尚一層努力して、先生のまかれた種を育て、花を咲かせる所存ですのでどうぞ私たちをこれからも見守っててください。

尚申し添えますが、清水園長の遺志を忘れないよう伝えていくために、これを機会に「清水賞」という制度をつくり、毎年その年に優秀な働きをした職員を表彰することにいたしましたことをご報告し弔辞といたします。

どうか安らかにお休みになってください。

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長 梶浦一郎



平成19年4月にセンターが完成しました。
グランドオープン記念式では清水園長自ら手術室等をご案内されました。

第34回 日本脳性麻痺研究会のご案内

開催日時 2007年6月8日(金曜日) 9:00 ~ 15:30
会 場 神戸国際会議場 3階 国際会議室
〒650-0040 神戸市中央区港島中町 6-9-1
テ ー マ : 早期発見から社会参加まで

講演内容

- 1 脳性麻痺早期療育の効果 森之宮病院 紀伊克昌先生
- 2 脳性麻痺の類型別発達経過と早期からの将来予測 大阪発達総合療育センター 児玉和夫先生
- 3 脳性麻痺患者の行動異常に対する薬物療法 心身障害児総合医療センター 米山 明先生
- 4 脳性麻痺者の自立生活 自立生活センター・ナビ 川崎賢恵様
- 5 脳性麻痺者のスポーツ参加 東京女子体育大学 児張秀樹先生

認定単位 :リハ医学会専門医・認定臨床生産科専攻科単位
10単位(講演2、3は受講単位申請中)

参 加 費 : 会員・非会員とも3000円。
第44回日本リハ医学会学術発表会参加者は無料
考: 事前申し込み不要

当会幹事: 鈴木恒彦 (大阪府立障害者医療・リハビリテーションセンター)

事務局: 〒546-0035 大阪市東住吉区山坂5丁目11番21号
大阪発達総合療育センター 清水信幸
TEL: 06-6599-8731, FAX: 06-6599-8134

第34回脳性麻痺研究会の
企画・運営が行われました



病棟や通園部の卒園式ではよく泣かれておられました。



阪神タイガースの熱烈なファンであった先生は赤星選手達からのプレゼント贈呈式にもいち早く駆けつけてくださいました。リハビリテーション部忘年会では大切な選手のサインを副賞としてプレゼントしてくださいました。



南大阪療育園わかば病棟のハンドボールチームのユニフォームのご寄附をいただきました。お忙しくされていましたが、会場には一番乗りでした。



三施設対抗ソフトボール大会では突如、スーツからジャージに着替えられ自ら出場されました。

清水信幸先生を偲ぶ会



2007年12月28日に大阪発達総合療育センター 5階ホールでご家族にもお越しただいて、清水信幸先生を偲ぶ会を行いました。センター利用者、職員を中心に多数の方にご参加いただきました。利用者を代表して長年、清水先生とお付き合いがあった吉村様に前施設からの先生のエピソードご紹介いただきました。また、大阪大学医学部付属病院の橋本教授から大学時代からの先生のご様子をご紹介いただきました。その他にも多くの方に先生のお人柄を偲ばせるお話をさせていただき、心に残る偲ぶ会を行うことができました。ありがとうございました。



清水賞受賞

平成19年の優秀な演題発表等を表彰する『清水賞』5題と『清水賞奨励賞』2題を選出し、表彰いたしました。清水賞とは、清水信幸先生の仕事に対する姿勢、ご功績を継承し、さらに発展させるために、平成18年から始めた職員表彰（優秀な演題発表等を表彰する）にその名を残すものです。

《清水賞》

- 【1】 肢体不自由児施設における遊びの実際と工夫点 通園部 ふたば：井田 亜樹子
- 【2】 短期入所にクリティカルパスを導入して フェニックス 3階病棟：永井 有美子
- 【3】 肢体不自由児通園施設の現状から考える地域療育支援の実践と今後の課題 リハビリテーション部：海瀬 一典
- 【4】 院内学級における作業療法士の役割 リハビリテーション部：中島 るみ
- 【5】 新生児聴覚スクリーニング検査の状況とアンケート調査から見た問題点と今後の課題 ゆうなぎ園：廣瀬 宜礼

《清水賞奨励賞》

- 【1】 下唇を咬み込む脳性麻痺児に対する下唇排除のための装置について 診療部 歯科：中村 由貴子
- 【2】 夏祭りへの利用者の主体的な参加に向けて 通園部 なでしこ：菅 直樹



快適な手術体験を目指して



麻酔科医 北村 征治

手術前は、保護者の方はもちろん、手術を受ける子ども達も、手術の痛みに強い不安と関心を持っておられることがわかります。子ども達は友達の手術日にも、お互いを思いやり術後の状態を見つめています。今回当センターの再出発にあたり、この不安を取り除き安全で快適な手術のために、手術環境がグレードアップされました。

手術による術後の不快感とは、手術部位の“痛み”と、術前予想できなかった“ギプス固定”の不自由感が主なものです。特に術後の手術部位の強い痛みは、未知の体験です。

麻酔科医としては、手術を受ける子ども達の“心地よい入眠と快適な目覚め”を目標としています。まず手術室という未体験環境に入るときの不安軽減のために、精神安定剤のシロップを飲んでもらっています。この薬は手術室の緊張した不安体験を忘れてしまう効果が確認されています。つぎに全身麻酔に使用するマスクは、子ども達が好む臭いつきマスクを使用します。術前診察時にそのにおいを嗅いでもらいますので、手術当日は静かに麻酔ガスを吸入して眠りにつきます。麻酔ガスの種類も眠りにつきやすい刺激の少ないガスと、麻酔からの覚醒時に興奮の少ないガスを使い分けています。

つぎに術後の鎮痛対策ですが、現在3種類の方法を手術室で行っています。まず、全身麻酔状態で、手術が始まる前に「仙骨神経ブロック」(仙骨硬膜外麻酔ともいいます)を局所麻酔薬に微量の麻酔用麻薬を混ぜて行います。この神経ブロックは、手術前に実施しておく方が、術後痛に対してよい効果が得られることが判っています(先取り鎮痛といえます)。第2の対策は、手術中に点滴から、先ほどと同じ麻薬を全身投与します。麻薬は鎮痛薬としては最も強力ですが、全身投与では副作用が出ないように調節が必要です。第3の対策として、手術終了時に鎮痛薬の坐薬を投与します。そして麻薬を静かに覚まします。この方法で、終了時に痛くて大騒ぎすることもはなくなりました。

術後も、しばらくはウトウトして眠っている人が多いですが、いずれは覚めてきますので、痛みが出てきたときには、通常の鎮痛薬の坐薬で対処します。今回の方法で、この鎮痛薬を投与するタイミングを大幅に遅らせることができました。つまり以前は大体手術終了後2時間以内に第1回目が必要になり、2回目の投与もその後4～5時間くらいでしたが、現在の方法では第1回目の投与が手術終了約5時間後、2回目はさらに5～6時間後で、子どもさんによっては全く投与の必要がなかった例もあります。また術後の嘔気・嘔吐も以前より少ないように思います。

以上の方法で、今のところ手術を受けられた子ども達から、術後に“痛かった”と不満を訴えられたことはありません。今後、よりよい手術体験に向けて改良を重ねてゆきたいと思っておりますので、どうかご理解とご協力をお願い致します。



競輪補助事業完了のお知らせ

この度平成19年度の競輪の補助金を受けて、下記の事業を完了いたしました。

- 一、事業名：平成19年度機器の整備補助事業
- 一、事業の内容：機器整備(東芝マルチスライスCT撮影装置一式)
- 一、事業費総額：24,150,000円
- 一、補助金額：13,741,000円
- 一、実施場所：大阪市東住吉区山坂5-11-21
- 一、完了年月日：平成19年12月13日



平成19年3月6日～20年1月8日までに ご寄付いただいた方々

K・S、吉村亮、吉村康、黒川和子、南田辺連合町会、鈴木祥子、成田憲子、第1びわこ学園園長 口分田政夫、松本嘉一、日本重症児福祉協会、四天王寺やわらぎ苑、大阪府重症心身障害児・者を支える会、岩崎淑子、寺岡富子、大浦敏明、大阪市東住吉区医師会、大阪府肢体不自由者協会、山野恒一、井上明生、藤村正哲、大阪市重症心身障害児・者を支える会、大手前整肢学園、大阪府重症心身障害児・者を支える会 三田康平、セルフ社、枚方療育園園長 渡邊誠、梅本有希子、紀伊克昌・宏子、片本真司、松山歯科医院 松山博史、建石保子、社会福祉法人 桃花塾、高岡哲也、母子医療センター 北村征治、藤井寺養護学校 田中直壽、道川内一紀、山下智花、愛徳園 塩崎時子、古座谷千華、岩城雅邦、安藤岬、ラウンジやま川、日進交通、関西西米婦人会、荒谷恵美子、H・H、シーツ交換ボランティアのみなさん、堺市重症心身障害者施設建設をすすめる会、栗本紀子(募金箱)、高橋知恵(募金箱)、川西悦子、黒田康子、O・M、山本勲、金奉賀、H(株)、中澤優子、山口加智子、中山尚崇、夏目恵津子、石橋勇人、富山訓行、片山登一、西野俊一、寺岡清、早山明宏、入江良子、幡中大起、堺障害者ステーション、広田和子、大阪市肢体不自由児者父母の会連合会、土井照夫、(株)コジマ 小島常男、(株)デイ・ワイ・ビー、大西喬子・晶子、大崎光夫、グループふきのとう、森田早紀子、中村有佑、新内初美、秋月重雄、岩崎康英、城英雄、藤本美穂子、東住吉区民生委員・児童委員会、南田辺民生・児童委員会

物品のご寄贈ならびに、ご協力いただいた方々

中川順子、古川敦子、安藤岬、啓啓員、森多喜子、加藤信子、日下部菅子、ジゼルタ ザニーニタリア総領事婦人、英国総領事館、モーリス ハルテンバッハ スイス総領事、(株)ポーネランド、ユニットケア、吉澤武彦、三田喜子、中山尚崇、寺岡富子、入江良子、川原春雄、各務貴朗、栗本紀子、上町珈琲、セレッソ大阪、井端悟、西村周也、妹尾友鼓、清村健人、板垣喜美、今田雅章、石田俊介、菓子協同組合、夏目恵津子、木下紀代美、貴志光代、東芳子、中村有佑、岡本汎美、匿名(人形)、今井香、リッツ・カールトンホテル・大阪、王鞍美千子、内田喜代子、大川敦子
(順不同・敬称略)